

平成26年度病害虫発生予察特殊報第3号

平成27年3月2日
愛 知 県

1 病害虫名：キュウリ退緑黄化病

(病原ウイルス：ウリ類退緑黄化ウイルス
Cucurbit chlorotic yellows virus (CCYV))

2 発生作物：キュウリ

3 発生地域：東三河地域

4 発生確認の経過

平成26年10月、東三河地域の施設栽培キュウリで葉の葉脈間が退緑する症状が発生し、その症状からウイルス感染が疑われた。

農業総合試験場で発生株のウイルス検定及び遺伝子配列解析をした結果、ウリ類退緑黄化ウイルス (CCYV) によるキュウリ退緑黄化病であることが判明した。

5 病徴及び被害

初期病徴は、葉脈間に退緑小斑点を生じる。症状が進むと小斑点は互いに癒合して、葉脈沿いに緑色を残した黄化葉となる (写真1)。草勢が低下し、収量減などの被害を生じる。

6 病原ウイルスの特徴

(1) 伝染方法

病原ウイルスは、*Crinivirus*属に属しており、タバココナジラミにより媒介される (写真2)。タバココナジラミは、病原ウイルスに感染した植物を吸汁することでウイルスを獲得し、数時間から数日間ウイルスを伝搬する (半永続伝搬)。なお、タバココナジラミのバイオタイプB及びバイオタイプQ両系統ともに病原ウイルスを媒介する。現在のところ、経卵伝染、土壌伝染及び種子伝染は確認されておらず、管理作業による汁液伝染もないとされている。

(2) 寄主植物

メロン、キュウリ及びスイカで自然発生が確認されている。接種試験では、その他のウリ科植物やアカザ科、キク科、ナス科、ヒルガオ科、マメ科、クワ科、シソ科やナデシコ科など、広範囲の植物に感染することが確認されている。

7 国内での発生状況

ウリ類退緑黄化ウイルスによる病害は、これまでに九州全県のほか、山口県、愛媛県、高知県、広島県、静岡県、神奈川県のカキュウリ、メロンなどで発生が確認されている。

8 防除対策

病原ウイルスの媒介者であるタバココナジラミの防除を徹底し、また、伝染源となる発病株の早期発見、早期除去に努める。

(1) ほ場及びその周辺では伝染源となる植物を栽培しない。

(2) タバココナジラミは雑草にも生息するため、ほ場周辺の雑草を除去する。

(3) 育苗並びに本ほ栽培はタバココナジラミの発生のないほ場で行い、施設

開口部に防虫ネット（目合0.4mm以下）を設置するなどして本虫の侵入を防ぐ。

- （４）ほ場に黄色粘着板を設置するなどして、タバココナジラミの早期発見に努める。
- （５）育苗期からタバココナジラミに適用のある農薬で防除する。なお、タバココナジラミは薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用を避ける。
- （６）発病株は見つけ次第抜き取り、ビニル袋に密閉してほ場外に持ち出すなど、適切に処分する。
- （７）栽培終了後は施設を密閉して蒸し込み、タバココナジラミを死滅させ、施設外への本虫の拡散を防ぐ。

9 連絡先

愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
電話 0561-62-0085 内線471



写真1 発病葉の退緑症状



写真2 タバココナジラミ成虫
（上：雌成虫、下：雄成虫）